

アジア・オセアニア 豆 知 識



自動車販売市場で急成長を見せるフィリピン、ベトナム

アジアでは、日本や韓国のほか、中国、インドが主に自動車販売市場をけん引しています。そうした中、近年、同市場において著しい成長をみせているのが、フィリピンやベトナムです。両国は相対的に高い経済成長を遂げている国でもあり、今後も更なる市場拡大が期待されます。

世界の自動車市場で販売台数が増加

OICA（国際自動車工業会）によると、2016年の世界の自動車販売台数は前年比4.7%増となりました。主な押し上げ要因としては、世界最大の自動車市場となった中国において販売台数が大幅に増加したことがあげられます。

2016年自動車販売台数・前年比伸び率		
国名	販売台数 (万台)	前年比 (%)
ベトナム	27	30.3
フィリピン	36	24.6
中国	2,803	13.7
インド	367	7.1

(出所) OICAを基に
三井住友アセットマネジメント作成

2016年の販売台数の絶対値では、第1位の中国に次いで、米国、日本、ドイツといった国が上位となっています。しかし、**伸び率に注目すると、アジアではフィリピンやベトナムの躍進**が目立ちます。

両国の販売台数の前年比伸び率は20%超といずれも高い伸びとなっています（左表）。順調な経済成長と旺盛な消費に支えられたことなどが背景とみられます。

また、両国では中古車輸入が実質禁止されていることも市場の拡大を後押ししていると考えられます。

自動車市場で存在感を増すフィリピン、ベトナム

一般に、**1人当たりGDP（国内総生産）が3,000米ドルを超えると、モータリゼーション（自動車の大衆化）が本格化する**と言われています。

IMF（国際通貨基金）のデータによると、2016年のベトナムの1人当たりGDPは約2,200米ドル、フィリピンは約2,900米ドルとなっています。1人当たりGDPが3,000米ドルに迫りつつある上、両国とも1億人前後の人口を擁しており、自動車販売市場の拡大期待は大きいものとなっています。

なお、フィリピン、ベトナムでは日本メーカーの販売シェアが非常に高いため、両国の成長は日本企業の業績に好影響を与えると期待されます。

(出所) IMF、各種報道資料等を基に三井住友アセットマネジメント作成



■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。